記　入　日　　2015 年　1 月　16 日

１．概　要

実践団体名	周防大島町立城山小学校		
連絡先	０８２０（７８）００１６		
プランタイトル	地域を見つめ、生きる力を育む防災教育		
プランの対象者※1	小学生（低学年） 小学生（高学年）	**対象とする災害種別**※2	津波

※1　別紙「記入上の留意点」の１．項目から選択し、記入してください。（複数選択可）
※2　別紙「記入上の留意点」の２．項目から１つ選択し、記入してください。

ハの提供

の取組

扱る。

華！

決定版！
豊かさ！

２．プランの年間活動記録（2014 年）

	プランの立案と調整	準備活動	実践活動
4 月	津波伝承情報収集 訓練避難先選定	伝承者訪問・依頼 伝承地の現場確認	津波伝承の聞き取り お話を聞く会の打合せ
5 月	伝承者の参加依頼 山大理学部に依頼	開催チラシ掲出・配布	津波伝承のお話を聞く会 津波伝承地バス見学（２か所）
6 月	避難訓練立案 山大講師依頼	町有地使用許諾 開催チラシ掲出・配布	引き渡しを含む総合避難訓練 山大金折教授公開出前授業
7 月	東北大講師依頼	児童のグループ分け 開催チラシ掲出・配布	東北大災害科学国際研究所出前授業 東北大災害科学国際研究所公開講座
8 月	土曜登校日立案 いのこ唄作成立案	地区別避難マップ準備 亥の子石借用手続き	校区内避難場所・経路確認 防災いのこ唄原案作成
9 月	Web ページ立案 備蓄改善提案	写真・資料整理 備蓄品購入	学校Web ページ開設 水・レインコートの備蓄更新
10 月	Web ページ修正案 発表会立案	動画・音声整理 いのこ唄歌詞修正	（防災フォーラム参加） 防災いのこ唄仕上げ
11 月	地域・中学校に連絡 研修視察受け入れ	序幕用いのこ唄作成 いのこ唄練習	防災いのこ唄発表会 地域の亥の子行事でいのこ唄の実演
12 月	いのこ唄拡張立案 まとめ小冊子立案	唄のテスト版 CD 化 募集カード作成	（防災フォーラム in 西日本参加） 唄の遊び方･小冊子イラスト募集開始
1 月	唄遊び奨励策提案 小冊子協力依頼	唄遊びの録画 応募作品選定	学校Web ページで遊び方公開 CD 付き小冊子作成・配布開始
2 月	小冊子増刷立案	公式 CD 作成 小冊子増刷	（防災フォーラム参加） CD 付き小冊子頒布
3 月	会計処理	資料取りまとめ	チャレンジプラン実践記録作成･継承

３．実践したプランの内容と成果

【実践プログラム番号：　１　】※3

タイトル	津波伝承のお話を聞く会
実施月日（曜日）	５月７日（水）
実施場所	城山小学校体育館
担当者または講師	講　　師：津波伝承者６名 氏　　名：略 所属・役職等：自治会長・農家・神主・主婦など地域住民
所要時間または「コマ数×単位時間」	９時２５分～１１時１５分
プログラムのカテゴリ、形式※4	２
活動目的※5	６
達成目標	周防大島の津波伝承６事例を児童・地域住民が聞き取る。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	伝承者割出・伝承内容聞き取り 講師依頼 チラシ配布、ポスター掲示 おはなしの会で聞き書き
準備、使用したもの **・人材** **・道具、材料等**	津波伝承地域の航空写真 聞き書き記録用地図 気象庁 Web ページ「津波について」等のプリント
参加人数	児童２９名、一般７０名
経費の総額･内訳概要	７８０円（伝承者交通費１名）
成果と課題	【成果】 既知の伝承１例の詳細と新たな事例５件が伝承者から直に聞けた。 【課題】 記録を紙媒体で公表・頒布する。
成果物	小冊子『瀬戸内海でもご用心』の記述

※3　本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1 つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。
※4　別紙「記入上の留意点」の3．項目から選択し、記入してください。（複数選択可）
※5　別紙「記入上の留意点」の4．項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号：　２　】※3

タイトル	津波伝承地バス見学（２か所）
実施月日（曜日）	５月２９日（木）
実施場所	周防大島町椋野「タコぎし」、瀬戸「太鼓岩」が見えるホテル屋上
担当者または講師	講　　師：津波伝承者１名　　大学教授１名 所属・役職等：椋野地区自治会長　　山口大学理学部教授 氏　　名：　竹元三千之　　金折裕司
所要時間または「コマ数×単位時間」	８時３０分～１２時１０分
プログラムのカテゴリ、形式※4	9
活動目的※5	6
達成目標	２事例の現場で解説を児童・地域住民が聞き、津波の実感をもつ。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	バス申込み（児童用・一般参加希望者用） 講師依頼 見学手続き チラシ配布、ポスター掲示
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	説明用拡声器 「タコぎし」「太鼓岩」見学解説用資料（学校・山大合作） 記念写真用カメラ
参加人数	児童３０名、一般４０名
経費の総額･内訳概要	57,001 円（バス貸切代、運転代、軽油代、傷害保険、旅費）
成果と課題	【成果】 遡上高２３ｍ、引き波６ｍの伝承の地を見学して、地域の津波の実相を、児童・地域住民が実感し、危機感を持てた。 【課題】 他の事例や学校近くの事例を全校児童で見学できるとよい。
成果物	小冊子『瀬戸内海でもご用心』の記述

※3　本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1 つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。
※4　別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）
※5　別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号：　３　】※3

タイトル	総合避難訓練および山大金折教授公開出前授業
実施月日（曜日）	６月２８日（土）
実施場所	城山小学校、町有地広場および城山小学校体育館
担当者または講師	講　　師：大学教授１名 氏　　名：金折裕司 所属・役職等：山口大学理学部教授
所要時間または「コマ数×単位時間」	９時２５分～１２時　　１３時～１４時
プログラムのカテゴリ、形式※4	１６、１１
活動目的※5	４、６
達成目標	災害対応能力の向上、保護者との連携、地震津波の最新情報理解
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	緊急地震速報対応避難および備蓄の計画 講師依頼 引き渡し訓練協力依頼 チラシ配布、ポスター掲示 出前授業「周防大島をおそう大地震と津波」 著作物配布
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	雨天対応テント 引き渡しカード 二次避難場所告知・引き渡し場所等の表示 出前授業用視聴覚機材
参加人数	訓練９０名、公開出前授業９０名
経費の総額･内訳概要	6,780 円（講師交通費）
成果と課題	【成果】 保護者・地域の防災意識の高まり 専門家の授業と著作物による地震津波理解の促進 山口大学理学部との交流深化・情報交換の継続 【課題】 引き渡し手順の改善、公開出前授業参加よびかけ
成果物	金折教授の著作・小冊子に掲載

※3　本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1 つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。
※4　別紙「記入上の留意点」の3．項目から選択し、記入してください。（複数選択可）
※5　別紙「記入上の留意点」の4．項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号：　４　】※3

タイトル	東北大災害科学国際研究所出前授業および公開講座、読み聞かせ
実施月日（曜日）	７月日１５（火）
実施場所	城山小学校体育館
担当者または講師	講　　師：大学助手（防災士）１名 氏　　名：保田真理 所属・役職等：東北大学災害科学国際研究所助手
所要時間または「コマ数×単位時間」	９時２５分～１０時１０分　　１０時３０分～１１時３０分
プログラムのカテゴリ、形式※4	１１、２、３、１４
活動目的※5	８
達成目標	震災体験を踏まえた減災行動、飲用水・トイレに役立つ備蓄の知恵
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	講師依頼 チラシ配布、ポスター掲示 出前授業（ワークショップ含む）「減災ってなあに？」 公開講座「３．１１が教えてくれた事」 防災絵本読み聞かせ（昼休み時間）
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	ワークショップ用テーブル 出前授業資料印刷 視聴覚機材（出前授業、読み聞かせ）
参加人数	児童４９名、一般２０名
経費の総額・内訳概要	10,000 円（講師料＝別途会計）
成果と課題	【成果】 減災の考えをワークショップで体感。防災絵本の読み聞かせと寄贈。 児童全員に減災の心得が描かれたハンカチ『減災ポケット』配布。 【課題】 低学年児童を防災教育に関わらせるためのヒントの具体化。
成果物	備蓄レインコート（簡易防寒着・簡易トイレ用を兼ねる）

※3　本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1 つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。
※4　別紙「記入上の留意点」の3．項目から選択し、記入してください。（複数選択可）
※5　別紙「記入上の留意点」の4．項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号：　５　】※3

タイトル	避難訓練および「ぼうさいかぞえ唄（いのこ唄）」に係る諸活動
実施月日（曜日）	１１月５日（火）　　以後は地域活動および常時活動
実施場所	城山小学校体育館
担当者または講師	担　　当：城山小学校教職員　　いのこ唄伝承者 氏　　名：略　　浜村一男 所属・役職等：　　城山小学校教頭
所要時間または「コマ数×単位時間」	１０時０５分～１０時３０分（避難訓練と発表会）、以後常時活動
プログラムのカテゴリ、形式※4	１６、３
活動目的※5	1
達成目標	緊急地震速報対応訓練、防災歌の創作と活用、防災意識の日常化
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	かぞえ唄作成・活用計画立案 津波防災の日に緊急地震速報対応避難訓練・防災歌発表会を実施 「ぼうさいいのこ唄」実演、地域行事でも実演 いのこ唄を「かぞえ唄」として拡張、遊び・日常化に使用 唄の説明書も加えたＣＤ付き小冊子を作成、広く配布する。
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	亥の子石借用 ボイスレコーダー 歌詞プリント シール（唄った回数分を亥の子石に貼り付ける） ＣＤ（かぞえ唄４バージョンを収めて 400 枚焼き増し、配る）
参加人数	発表会（児童５２名、一般１０名）
経費の総額･内訳概要	70,000 円（印刷代、ＣＤ代、頒布切手代、亥の子石レンタル料）
成果と課題	【成果】 かぞえ唄で遊びながら楽しく地震津波防災の意識を継承 CD 付き小冊子で、周防大島・瀬戸内海の防災情報を継承 【課題】 広く西日本各地に「かぞえ唄」を流布・頒布する方途
成果物	ぼうさいかぞえ唄ＣＤ付き小冊子『瀬戸内海でもご用心』

※3　本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1 つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。
※4　別紙「記入上の留意点」の3．項目から選択し、記入してください。（複数選択可）
※5　別紙「記入上の留意点」の4．項目から1つ選択し、記入してください。

４．苦労した点・工夫した点

プランの立案と調整で苦労した点工夫した点	・津波伝承者来校の日程調整 ・大学の専門家への指導依頼（適任者の選定） ・地域伝承のいのこ唄に重ねた防災歌の創作
準備活動で苦労した点工夫した点	・津波伝承の会の提示資料の準備（時間不足） ・専門的な地域防災情報の入手と理解 ・校外学習の安全確保 ・東北地方での震災の見聞とその活用 ・地域の協力者・理解者との連携 ・唄のＣＤ化のため音楽専門家へ協力を依頼
実践に当たって苦労した点工夫した点	・防災教育にあてる時間の確保 ・構想立案から共通理解・実践までの説明時間の不足 ・全学年の児童に向けた楽しい活動づくりの模索 ・防災いのこ唄から防災かぞえ唄への発想転換 ・児童の発想の募集と活用

５．他の団体、地域との連携

協力・連携先の分類	団体名、組織名	協力・連携の内容
学校・教育関係・同窓会組織	山口大学理学部 山口大学大学院理工学研究科 東北大学災害科学国際研究所 長崎県新五島町立魚目小学校	地域防災情報相互提供 著作物提供 指導助言・出前授業 出前授業、読み聞かせ 防災グッズ提供 研修視察に来校
保護者・ＰＴＡの組織	城山小学校育友会	避難訓練参加 引き渡し訓練協力 備蓄品経費の負担
地域組織	外入地区自治会 佐連地区自治会 長崎地区子ども会	避難訓練参加 防災いのこ唄の実演 いのこ唄の実演協力
国・地方公共団体・公共施設	山口県教育委員会 周防大島町教育委員会	指導助言 小冊子配布協力
企業・産業関連の組合等		
ボランティア団体・ＮＰＯ法人・ＮＧＯ等	防災を考える会準備会（岩国） さくらネット 「防災腹話術」研究会	視察来校 スマトラ沖地震津波関連情報提供 情報提供
職業、職能団体・学術組織、学会等		

６．成果と課題（実践したプラン全般について）

成果として得たこと	「津波伝承を聞く会」を公開実施、周防大島の津波伝承８か所を発見、情報発信 山口大学と連携して津波伝承地２か所のバス見学を公開、津波伝承を広報 山口大学公開出前授業「周防大島を遅う大地震と津波」を実施、防災意識発揚 東北大学の減災授業と公開講座を実施、震災の教訓を周防大島に導入 総合的な避難訓練を実施し、避難先・引き渡し・備蓄等を改善 島嶼部での緊急時の水の確保を工夫、１人１Lの飲用水の常備を開始 学習成果を、地域伝承行事「亥の子」で唄える「かぞえ唄」にまとめ、発信 「かぞえ唄」を全学年で工夫し、「子守歌」の唄い方も加えてＣＤ化 チャレンジのまとめ『瀬戸内海でもご用心』を作成､頒布
全体の反省・感想・課題	地震大国の日本なのに、ふと顧みると、日本の伝統に根ざした、子どもから大人までも唄える防災の唄はないのではないでしょうか。城山小学校の「かぞえ唄」は、このような日本の防災文化の空白を埋めるチャレンジともいえるのではないかと自負しています。 防災教育は､難しく考えると本当に難しいですが､小さな子どもにも楽しく、できれば遊びながら…と考えて実践してきました。どこか大きな勘違いをしてはいないかという心配もしています。どうぞ、お気づきをください。 実践の途中に出向いた東北での見聞は有意義でした。気仙沼で「前途洋々」の言葉に出会いました。前途が洋々なら、過去もまた洋々であったのが日本です。日本を囲む海に、海から繰り返し帰ってくる津波に、もっともっと真摯に向かい合って生きるべきで、これが津波防災の根本だと考えます。周防大島出身の民俗学者　宮本常一　の業績や視点を、これからも参考にしていきたいと思います。
今後の継続予定	学校の児童数が減り、複式学級化の波が学校に迫っています。今後は、その対応にも追われそうです。 ● 2014年度実践で得た伝承と防災資産・防災文化・を継承し、地域を見つめ、生きる力を伸ばす実践に取組、成果を地域に発信し続けます。 ● 地域との連携・協働による防災教育を工夫し、防災文化の創造を続けます。例：かぞえ唄遊びの会、ぼうさいいのこつきの日の共催、等々

７．自由記述欄　※6

※6　自由記述欄は、防災教育の実践で得られた知見、防災教育の普及に関わる提案等を盛り込んでください。また、前頁までの記述に不足した事項、参考資料、写真等を自由にご記入ください。なお、3ページ以内厳守でお願いします。

本チャレンジ全体の底には、城山小学校出身の民俗学者宮本常一の手法や発想法が流れています。

絵本の読み聞かせもしてくださった東北大学災害科学国際研究所の保田真理先生には、「災害の際の水の確保・トイレの確保」という東北の教訓と、「小さな子どもには小さい子ども向けの防災教育の進め方がある」という考えを教わりました。

この考えは、チャレンジの後半に大きなはずみをつけていただきました。

気仙沼市の災害復興に尽くしている小山菓子店さんを尋ねたときに聞いた、「３．１１を伝える事実や写真は山ほどあるが、子どもには子どもに向いた別な防災の伝え方をしないといけないように感じている」という言葉と重なります。

瀬戸内海の防災は、本当に気がかりです。

しまなみ海道シトラスパークでたまたま出会った尾道市長さんが「液状化」を懸念していたり、岡山県瀬戸内市牛窓の公民館長さんや土産物屋さんが「避難訓練」のことを話してくださったりした程度で、どこを訪ねてもみても、概してのんきのように感じました。

「広島市の海岸ぞい、あれは、大変なことになりますよ」、周防大島に釜石市から移住してきた知人は心配そうに言います。

広島湾岸をはじめ、瀬戸内海沿岸が、液状化による打撃だけでなく、宮城県松島で聞いたようなカキ筏の流出と海底のヘドロの押し寄せなどのような、種々大変なことになって立ち直りが遅くなればなるほど、高齢化が著しい中四国の中山間地の災害復旧や瀬戸内海の産業・物流の停滞が長期化して、日本全体が危機に陥るとい

うことになります。

「日本人は３．１１を経験しても地震・津波にこりていなかったのか？」

将来、西日本で大災害が起きたとき、今のままでは、外国からそう言われそう…。学習が進むにつれ、6 年生の子どもたちと、そんな話をしないではいられませんでした。

「ぼうさいかぞえ唄」の歌詞には、その 6 年生が、山大金折教授の見学案内や出前授業で「津波が 4 倍遡上することがある」と聞いて覚えていたことが入っています。この「4 倍」が唄全体の中で特に重要だと考えています。

亥の子を詳しく調べると、『忘れられた日本人』に出る長崎県対馬浅藻に周防大島の久賀と同じ歌詞の亥の子唄があって驚かされます。今年も３人兄弟の子らが久賀から対馬へ、時と所と世代を越えて受け継がれた亥の子を行うのだそうです。亥の子のもつ、日本人のこの力を防災にも使いたい、そういう願いを込めています。

道のりは、遥かですが、ぼうさいいのこ子唄のネットワークが西日本に広がるとよいと考えています。西日本の子どもたちが、それぞれ違う地元の亥の子唄といっしょに、全国で同じ「防災いのこ唄」も唄い継いでくれるよう、まだまだ唄を広げていきます。それには、インターネットをもっと有効に使えるよう学校全員で努力すること。少人数でも、子どもも教師もがんばります。

（自由記述：１／３）

（自由記述：２／３）

（自由記述：３／３）